

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら松本白板教室

保護者等数(児童数)6名 回収数 6名 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4	2				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	4	1		1		
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4	1		1	室内で体を動かす活動をする時に広さが足りているのか分からない。	教室の広さは規定の2倍の広さを確保しております。 室内で体を動かす支援を行う際には現状のスペースを上手に活用して行っています。
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	6					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5			1		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	5	1				
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	4			2		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	1		2		
保護者 への 説明 等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	6					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	2	1		3	・私が行く機会が持てないため ・保護者向けのプログラムがあるなら参加したいです。	現在行っておりませんが希望、要望があれば行います。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4	1				
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	3	1		2		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1		4		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	6					
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4	1		1		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	4	1		1		
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	6						
非常時 等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか、また、発生を想定した訓練が実施されているか	2	1		3		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	1		3		
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	6				・子どものペースに合わせて対応してくれているので通所を楽しみにしているようです。 ・楽しそうに通っていて感謝しています。	それぞれのお子さんの特性に合わせて楽しく過ごしながら支援の提供できるよう心がけております。
	23	事業所の支援に満足しているか	6					

99 14 0 24

72%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすくら松本白板教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切であるか	○		配置については規定の倍の配置をしています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		文字や絵カードを使い利用さんが活動しやすい環境作りを心掛けています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は現在行っておりません。今後の状況を踏まえ検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		本部社内研修他、外部研修動画(作業療法士会など)を活用しています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ガイドラインに沿った様式を使用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに沿った様式を使用しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援管理責任者と担当保育士が随時相談しながら支援しています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		発達状況を踏まえながら適時工夫しています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		基本的に午前と午後に打ち合わせを行っています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
関係機関や保護者	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		基本的には6か月以内に1回計画の見直しをしています。また、必要に応じて適時計画の見直しをしています。	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加しています。必要に応じて担当保育士も同席しています。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		市のこども福祉課のケースワーカーと連携して情報共有しながら支援しています。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在医療的ケアが必要な利用者はおりません。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園での姿と療育施設での姿が違ったりする場合、双方で施設を行き来し情報共有しながら支援しています。		

保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		全ての利用者さんに対しては行われていませんが必要に応じて行っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		年に4回ほど開催される市の療育ネットワーク会議に参加しています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			変化や成長は勿論ですが、普段のちよつとした事なども保護者様と共有できるよう心がけています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングの必要性を感じているので自宅でも出来るようにプログラムを考案しています。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者様が仕事で忙しい事と保護者同士の懇話希望がないため行っていません。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			活動の様子をお便りで毎月配布しています。そのほかLINEを活用してリアルタイムでの情報共有を行っています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		大々的な行事を行う事は無いので今のところは行っていませんが施設見学など常に開かれた状態にしています。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			ご意見の中で分からないとの評価が多かったので分かりやすく周知していきいます。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回、火災と地震を想定しての避難訓練を行っています。	
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			てんかんや服薬のあるお子さんがいる場合保護者や医師の指示のもと適切に対応しています。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年2回社内研修を実施しています。虐待行為が起きないように日々職員の意識向上に努めています。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体拘束は当人の怪我、生命に関わる危険がある場合以外身体拘束を行いません。	